

## 意見交換会報告書

意見交換会の議題	大和市のスポーツ振興について
意見交換会の相手先 (団体名等)	大和市体育協会 大和市スポーツ推進委員連絡協議会 大和スポーツクラブ NPO法人大和シルフィード・スポーツクラブ
参加人数	12名
開催日時	平成27年1月20日(火) 午前10時00分～午前11時50分
開催場所	大和市議会 全員協議会室
担当議員	座長：河崎 民子 司会者：古谷田 力 記録者：町田 零二 出席者：井上 貢、青木 正始、榊田 和広、宮応 扶美子
要点等	別紙のとおり

大和市議会議長様

平成27年2月6日

大和市議会意見交換会実施要領第8条の規定により提出します。

意見交換会座長 河崎 民子

### 第3回大和市議会意見交換会 会議録

日時；2015年1月20日（火）10：00～11：50

場所；大和市議会全員協議会室

出席者；

市民団体

大和市体育協会会長；廣瀬秀夫氏

大和市スポーツ推進委員連絡協議会会長；宮田恵津子氏

大和スポーツクラブ会長；姉崎正男氏

NPO法人大和シルフィード・スポーツクラブ理事長；加藤貞行氏

文教市民経済常任委員

河崎民子（神奈川ネットワーク運動） 町田零二（明るいまらい・やまと）

井上 貢（新政クラブ） 青木正始（新政クラブ） 梶田和広（公明党）

古谷田力（大和クラブ） 宮応扶美子（日本共産党）

傍聴 吉澤 弘（公明党）

座長；河崎民子（委員長） 司会者；古谷田力（委員） 記録者；町田零二（副委員長）

#### 日程1 あいさつ

菊地議長；議会基本条例を策定し、より開かれた議会、政策を提案する議会として市民や市民団体の方々と意見交換会を開催している。昨年は大和市社会福祉協議会、また昨日は大和市商工会議所と意見交換を行った。少しずつ課題が見えたと感じている。

5年後にオリンピック・パラリンピックが迫っており、スポーツ振興に向けて国は大幅な予算を組んでいる。大和市にとってもよいタイミングである。スポーツ振興に向けて、現状の問題点、課題、解決策など活発な意見交換を行って、行政に提案してほしい。

河崎座長；地方分権が進む中で自治体の役割、議会が果たすべき役割は重要になってきており、全国的に議会の改革が進んでいる。本市議会も議会や議員の基本となる議会基本条例を制定し、条例に位置づけている意見交換会を積極的に開催していく方針である。文教市民経済常任委員会としては、市のスポーツ振興策の中で重要なスポーツ関連団体の方々との意見交換会を最初に設定した。本日は忌憚のないご意見をいただきたい。司会進行は古谷田委員にお願いした。

## 日程2 自己紹介

古谷田；まず議員側から自己紹介をする。

宮応；人生の友として芸術とスポーツは並び称されるが、子供たちがどのようなきっかけでスポーツに取り組むのか、また子供の貧困が社会問題化している中で、どの子にも機会が与えられるようなスポーツ振興策はどうあるべきかに関心を持っている。

青木；本日はよろしく願います。

井上；私自身は小学生から29歳までサッカーをしてきたが、議会では野球やソフトボール関連の問題を取り上げてきた。

柘田；本日は市に対する要望等をお聞かせ願いたいと思っている。

町田；今日は記録を担当する。

古谷田；各団体の自己紹介は、人となりを言ってもらえるとありがたい。

広瀬；青木議員のお父さんにはバレーボール協会の会長としてお世話になった。

宮田；意見交換会の話をもらって、スポーツがちょっと日の目を見るのかと今日は楽しみにしてきた。

姉崎；この50年、さまざまな団体に関わってきたがスポーツ少年団との関わりが長い。大和スポーツクラブとして、総合型地域スポーツクラブ創設に向けて行政支援を受けながら活動している。

加藤；NPO法人大和シルフィードを3年前に立ち上げた目的は、将来的に「なでしこリーグ」に上がるチームづくりをすることにあった。そのために法人格をとった。同時に、総合型スポーツクラブをつくるための人材確保や組織づくりも必要だった。私自身は草野球をしてきたが、娘が女子サッカーに入ったことが転機となり、25年間女子サッカー一筋でやってきた。その中から川澄・上尾野辺選手らが花開いた。先日2人を呼んで林間小学校でサッカー体験会を開催したように、スポーツを通して、人づくりや、まちを明るくすることを考えている。総合型スポーツクラブは、欧州のような、サッカー場や野球場の横でお茶を飲みながら練習風景を見たいと、おじいちゃんや子供、孫をつれて人が集まってくるような地域をつくること、究極の目標はそこにあると考えている。それを目指して頑張っている。

## 日程3 意見交換 テーマ「大和市のスポーツ振興について」

古谷田；意見交換に入る前に若干の説明をしたい。議員は自由に意見を言うが、その意見は議会の統一見解ではないことをご理解いただきたい。この場は、お互いの気づきの場として活用していただきたい。市長等への要望について

は、参考として聞くことに留まるので、ご了解をお願いしたい。また、本日の意見交換会は、会議録を作成して後日公開することとしているので、あらかじめご承知おき願いたい。

まず、大和市のスポーツ振興施策や事業、スポーツ全般について意見があれば述べてほしい。

広瀬；オリンピックに向けて横須賀市にナショナルトレーニングセンターをつくるという話が昨年あったが、その後どこまで進んでいるか、情報があれば教えてほしい。

古谷田；東京に味の素トレーニングセンターができメダルの数が飛躍的に伸びた。選ばれた選手が、国の補助金でトレーニングや宿泊、食事などを専門家に指導される効果は大きい。東京オリンピック開催に向けて国が自治体を誘導する方向にいくのではないかと思うが、横須賀について、その後の情報は入っていない。

廣瀬；小泉進次郎議員が顧問になっているので進展していくのではないかと思う。

宮応；国とは別に、いろいろな自治体がセンターをつくとよいと期待されているのか。

廣瀬；期待がある。本日の会合の前に議長から「困っていることは何か」と聞かれて「施設がない」と答えた。大和市の場合は市域が狭いので無理は言えないが、自治体がトレセンを設置することは、その後のスポーツ施設や施策の充実につながる。

宮田；横須賀市の事例は非常に良いと思うが、大和市はそのような施設でトレーニングを受ける人材が育っていない現状だ。中学生の部活も指導者が素人で、先生が一生懸命に勉強して教えている状態だ。大和市はまだ底辺づくりが必要な段階だ。

姉崎；少年野球で言えば、昨年まで下鶴間スポーツ広場を専用で 37 年間使わせていただくなど、大和の少年野球は恵まれてきた。他市では小学校のグラウンドを使わなければ大会が開催できない、地主でなければ少年野球のオーナーにはなれないと言われる地域もある。私は 120 チーム近くが参加する野球連盟の副会長もしているが、大和市は、会場がなくて試合日程が組めないということはほとんどない。大和スタジアムなど施設面でよく支援してもらっている。ソフトボールをやる施設は不足しているが、ソフトボール人口は減っているので問題視するほどではない。問題があるとすれば、つきみ野野球場が軟式野球のトップクラスの選手には使えない。ボールが道路に出てしまう。ネットの高さが足りないといったところか。ゆとりの森の大規模多目的スポーツ広場に少年野球専用のグラウンドができるような話も耳にしてい

る。どんどん推進してもらって、相模原の「ひばり球場」のイメージで、女子のソフトと少年野球が専用で使えるグラウンドができれば、なお活性化してくるのではないか。

加藤；サッカーは施設が余りに少ない。練習場所も足りていない。神奈川県がサッカー専用のグラウンドを泉区につくったが、抽選であり、利用は非常に厳しい。大和市には大人が使えるサッカー場が大和スポーツセンターと土のグラウンドの宮久保スポーツ広場しかない。各種団体で取り合いになっている現状だ。特にスポセンは単独のチームが使えることはまずない。大和シルフィードがチャレンジリーグに昇格し、市から配慮してもらってはいるが、練習場所がないのが一番の悩みだ。渋谷中学の学校開放でナイター施設を使わせてもらっているが、土のグラウンドで2時間という制限がある。トップリーグを目指す中で施設の整備が望まれる。

もう1つの問題は、中学校に女子のサッカー部がないことだ。女子サッカー部をつくる運動にかかわっている。小学生のチーム「林間レモンズ」からつきみ野中学校に進学する子が多い関係から先生が理解を示してくれ、女子4～5人が男子のチームに入ってやっている。だが、女子を特別に指導するほど先生に余裕がない。外部からの指導者についても、練習試合に連れて行きたくても顧問の先生の付添なしでは行けないなどさまざまな制限があり、手伝ってあげたい気持ちがあっても気楽には手伝えないのが現状である。バレーボールも同じような状況だ。外部指導者を引き受ける人はいるはずなので、制約や制限をうまく緩和できないものか。だが、責任問題などが常にあり、任せてケガでもされたとき、責任を取るのには学校や市という考えが重い負担になっているのかと推測する。

宮田；地域の体育振興会やスポーツ推進委員は、子供からお年寄りまで普段スポーツをしない方々にいかに参加していただけるかを常に考えている。施設は学校を借りているので充足している。スポーツをしていない子供たちをどのようにスポーツに導くかが課題だ。

今年、大和の駅伝競走は参加選手も沿道の声援も多かった。スポーツが盛り上がってきたかと肌で感じた。これに後押しされながら、地域の振興会としてもスポーツ団体と地域のつながりを、健康推進の面からも考えていきたい。

古谷田；スポーツ施設が足りないという意見があったが、これが1つの課題かと思う。議員側で意見はないか。

河崎；野球はある程度充足しているが、サッカーは大人が利用できる施設がスポーツセンターと宮久保スポーツ広場しかないということであったが。

加藤；宮久保は市の大会などには使えるが、小さいので公式戦には使えない。

廣瀬；整備中のゆとりの森の多目的スポーツ広場は大人も子供も使用できる。

宮応；昨年この委員会で美作市の岡山湯郷 Belle を視察したが、あのようなグラウンドを持っているのは特別中の特別なのか。

加藤；湯郷はワールドカップのキャンプ地としてグラウンドがたくさん整備された。終わったあと施設の有効活用が日本サッカー協会の会長や知事、市長等で協議され、トップダウンで決まった。我々からすれば素晴らしいモデルケースだ。

井上；中学の部活に女子サッカー部をつくりたいが指導者がいないという話があった。自分は大和高校サッカー部出身だが、今や OB 会は半分以上が女子になっている。大和高校などに打診して指導者を派遣してもらってはどうか。

加藤；シルフィードの中学生で大和高校に合格した子が 3～4 名いて、その子たちが大和高校で男子に混ざってサッカーを始めた。顧問になった大清水高校から転勤した先生が全面的につくりだしたと言ってよい。顧問が女子サッカーに理解を示せば公立高校でもすんなり行く。弥栄高校もそうだった。

井上；指導者は集められるが顧問のほうがないということか。

加藤；そうだ。大和高校もいま外部指導者が入っており、シルフィードのコーチも外部コーチとして手伝っている。まずは顧問がないのが課題。顧問がいないと遠征もできない。

梶田；話がずれるかもしれないが、施設の設備について聞きたい。スポーツセンターの空調設備が整備されるが、他に施設・設備で要望はあるか。

広瀬；空調設備は予算的にもたいへんお金がかかるので、正直なところ余りなことは言えない。先ほどから出ている宮久保スポーツ広場は屋根付きのベンチがほしい。雨宿りする場所がない。ゆとりの森は、大和と綾瀬で施設予約の受付日が異なり、綾瀬の方が 1 ヶ月早くて大和には不利。また、先ほど駅伝の話が出たが、現在のコースは交通量の関係で警察の指示がある。できれば綾瀬市部分も使わせてもらって、ゆとりの森でできたらと考えている。とくに来年はスポーツセンターが使えないので、駅伝をやる場所がない。

古谷田；スポーツセンターのトラックは損傷が激しく県の 3 種公認がとれないため、今年 9 月からトラックの全面改修をすると聞いている。駅伝ができないことについて行政の説明はあったか。

廣瀬；市側からまだ正式な話はない。

宮田；ゆとりの森は狭くて、駅伝の人数が走るには向かないのではないか。渋谷西体育振興会はゆとりの森と共催でマラソン大会をやっている。その参加人数くらいが手一杯で、レベルの高い選手が集まると、道幅が狭いので難しいと思う。

青木；マラソンだけではなく、ゆとりの森はテニスなどさまざまなスポーツで大和と綾瀬で共同利用できたら素晴らしい可能性が開ける。議員も議会で取

り上げ働きかけているが行政間の調整はなかなか難しいようだ。また、部活の顧問の課題については、先生がたが最近では忙しく、昔のようにはいかず難しいところだ。練習時間の問題は部活だけでなく消防団にもある。市や県の大会に向けて練習するが10時までには撤収しなくてはならない。練習開始が8時、9時になることが多いので厳しい。大和市は県下第2位の人口密度で近隣には住宅地が多く、騒音への配慮などあり、消防団も苦勞している。宮田；学校開放は、座間などは夜10時ごろまで使えるが、大和は9時で終わらないと近隣から苦情がくる。難しい。

廣瀬；使っている人に直接言ってくればいいが、すぐ市長にまで苦情がいく。

宮田；学校開放については、子供たちが野球やサッカーでグラウンドを使うとき有料だったが、議会で働きかけて無料に戻った。お伝えしておきたい。先ほど私の問題意識として述べたが、スポーツは野球など個人の用具等でお金がかかる。親に余裕がない家庭の子供はスポーツを諦めざるをえないのか。生涯スポーツという形でどのようにフォローしていくか、それが底辺を広げる1つの方法かと思うが、そのあたりはどうか。

宮田；そのような話は振興会には届いていない。相談されれば考えていける。

加藤；普及ということでは、私たちシルフィードは、昨年、緑野、中央林間、上草柳の放課後児童クラブでサッカー体験会を無償で行った。40～50名の子供たちが参加して楽しんでくれた。社会貢献活動は、NPO法人として上を目指していくために今後ますます大切になるだろう。その他、有料でサッカースクールもやっているが、我々のスクールではなく、月に7～8千円のお金をかけてクラブチームに入れる家庭がふえている。サッカーや野球などの少年チームは、親の当番や車出しがあるという負担感から、入ってくる子が減ってきている。有名なレッズも今は40人くらいしかいない。サッカーも同様だ。他の子供まで面倒を見られないという大人の個人主義により、将来は衰えてくるのではないか、何とかしなくてはという危機感がある。

古谷田；少年サッカーは保護者と子供が一体となって運営することによって、子供も成長するし、親もサポートすることで成長する。しかし、共働きでそのような場には参加しにくい、クラブチームに入れざるをえない家庭もあり、コミュニケーションが薄れている部分はあると思う。

古谷田；女子中学生の運動量がどんどん減っているという報道がある。先ほど宮田会長が言われたスポーツをやらない子、ゲームしかやらない子をどうするかという課題について意見交換したい。まず現場から現状を聞きたい。

廣瀬；バレーボールで言えば、昨年、大和出身の熊田元オリンピック選手が監督の女子小学生チーム「サムライレジェンド」が全国大会へ行った。その前

は下田監督の「草柳スカイジュニア」が全国大会へ行っている。ただ、子供の絶対数が減っているのので、1つの小学校で1チームできない、複数校でやっと1チーム編成できるかといった状況だ。また、指導者として有望な人材が地域にいるが、遠くで見ているだけの人もいる。トップレベルの人だと小学生には教えにくいのかなと感じている。

宮田；私がかかわっている下福田小学校は児童数が500名くらいだが、サッカーはそれなりに元気にやっている。学校で子供たちの遊ぶ様子を見ているが、昔のようにおおぜいでドッジボールをやることは少なく、少ない人数で遊んでいる。昔と違い先生方も忙しく、子供たちだけで遊んでいる。

地区でニュースポーツを紹介している。体育祭・運動会も子供からお年寄りまで参加できるよう各地区で頭をひねっている。少し違うかもしれないが、コミセンでニュースポーツを紹介するにあたり、地域のスポーツ推進委員がその地域のコミセンだけに関わるのではなく、大和市全体を見据えながら他の地域とも連携ができないかとの相談を受けている。子供やお年寄りも対象にしながら皆さんに体力をつけ元気になっていただくために、他団体とコラボレーションをしながら体力向上を目指していきたい。

姉崎；皆さんの意見を聞いていて少し頭の整理ができないところがある。大和のスポーツ少年団は東京オリンピックを契機に設立され、神奈川県より1年早く本部組織ができた経緯がある。一番多い時には28団体くらいあった。サッカーの人たちもスポーツ少年団に入っていたが、単独で競技種目をやりたいと独立した。いまスポーツ少年団は、野球や柔道、剣道、バドミントン、ハンドボールなどの団体で組織されている。スポーツ少年団の人数は450～480人で推移していて、いま450人くらいだ。さほど減っていない。各競技団体はその種目をやり、全員が共通する種目の大会等も行っている。野球の単位で見ると、人数が極端に減ってチームがなくなってしまうことはここ何年、ない。若干、桜ヶ丘のチームが、人が集まりにくい状況はある。先ほど頭の整理ができないと言ったように、指導者がありきで子供が集まるのか、子供が集まって必要な指導者が行くのか、そこにちょっと誤解があるのではないかという気がする。本当の意味でのスポーツクラブ的なものを、自治会や地区やPTA、学校を含めて地域ぐるみで育てている地区もある。また、例えば宮田会長が、振興会等々で運動をやってない人を対象にやりたいと言われたが、もともと動かない人をひきずり出すのは非常に難しいことだ。こんないいことをやるからと言われても、少年団や野球連盟は別の事業体だから連携はうまく取れない。

別の言い方をすると、サッカーも大きく大和のスポーツを考えているのだから、スポーツ少年団にいていいではないか。トップクラスを狙うなら、野球

をやっていた子がそのレベルに行ったらサッカーをやってもいいのではないか。なぜ広い感覚でできないのだろうか。場所取りも、サッカーが使うから野球は使えないではなく、半分ずつ使うこともできるのではないか。フルコートがいつも練習に必要なわけではない。そのようなことが体育協会やスポーツ界の中でできないのかという思いがある。

また、現状の中で課題は何かと先ほど聞かれたが、議員の方々は先を見て計画を練ってもらいたい。例えば、ゆとりの森に中規模多目的スポーツ広場が4面できた。フットサルはサッカーとは違う種目で、コートができたからフットサルをしようと体育協会にも加盟してくるが難しい状況である。

また、市はバスケットコートを屋外に整備してしまった。つくる前に利用団体になぜ相談しないのか。1面だけ、野球も使えるようにと屋根をつくりネットを張って改修してもらったが、どう考えても野球の室内練習場のイメージだ。何か違うのではないか。もう少し総合的に話し合いをしながらできないものだろうか。スポーツセンターが予定よりも消耗が早いというのは、まず使用料は安いし、利便性があるし、近隣の団体は使いやすいので当然だ。計画性があればもっと大事に使うことはできたはずだ。トータルに10年20年先のことを考えてやっていくべきではないか。

大和スタジアムに新しいグラウンドができるとき、野球連盟は情報をキャッチして日本中の野球場を見に行った。理想的にはどんな球場にしたらよいのか、みんなが使いやすいコンパクトでしかも良い球場をつくるために私たちが提案しようではないかと設立委員会をつくって図面まで引いて市に提案した。もちろん、かなりの部分が生かされた。大和スポーツセンターの空調設備にしても、最初につくるときに他の市町村ではすでに空調がついていたので付けることは可能だったはずだ。さらに言うと、陸上競技場も、大和のロケーションと規模の中で地下に駐車場をつくれば、更に有効に活用できたのではないか。いつも後付けになっていて残念だ。議員の方々は、もっと市をコントロールしてもらいたい。

加藤；スポーツの普及については、子供が減ってきているし、気軽に子供たちを誘える時代でもない。きょうだいが出てくる下の子を入れていくしかない。我々の団体では人数が減っている。逆に、高いお金を払って預けておくシステムが当たり前になってきている。塾の一環のスポーツビジネスに多くの親が動いているというのが現状だ。我々のように子供を集めて地べたでやっているのは難しい時代だ。

先ほど話があったサッカー協会がスポーツ少年団を脱退した経緯はよく知らないが、私はアメリカのように、このシーズンはサッカー、このシーズンは野球というのができるといいと思っている。

卓球など個人のスポーツが伸びており、5人でできるフットサルも伸びている。5人くらいならすぐに集まれる。団体は広いスペースが必要になるので、気軽にできるスポーツのほうが振興するのかもしれない。

また、先ほど姉崎会長が言われたグラウンドをシェアする話だが、林間小や南林間小のグラウンドは1日空いていることもある。サッカーが<sup>きゅうきよ</sup>急遽試合が入って使わなくなったなどの情報など、密に連絡を取り合えるようにしなければもったいないと思う。違うスポーツ同士の横の連携やコミュニケーションが不足している。

宮田；姉崎会長が言われた意見に賛同する。施設を整備するときは使う人の身になって良いものにしていただきたい。大和市は、中規模・大規模多目的広場など、どこを見ても多目的広場だが、実際は多目的ではない。これは使ってはいけない、あれはいいは多目的ではない。ゆとりの森にあれだけたくさん施設ができたが、私たちからみればどの施設も中途半端に見える。指摘があったように、屋外にバスケットボール場をつくっても雨が降ったら使えない。広くはないし、もったいないお金の使い方だ。実際に使う人に意見を聞いてつくって欲しい。ゆとりの森に行くたびに残念に思う。

古谷田；コートは、ヨコをタテに設計すればサッカーにも野球にも使えたはずだ。

加藤；どこで設計してどこで決めたのか。全く考えなかったのか。

宮田；綾瀬は多目的ではなく、グラウンドはグラウンド、サッカー場はサッカー場と、スポーツ施設として整備している。大会など開催してしっかり利用されている。大和はスポーツ施設ではなく公園なので。

廣瀬；当初はスポーツ施設と公園と一体的につくって共同利用するはずだった。

姉崎；綾瀬の野球場は高校野球にも使えるようにと大規模なものを整備したようだが、高校野球連盟に打診をしていないから、アクセスは悪いし、高校野球の開催は難しいという結果になってしまった。

宮田；本当にその通りだ。基地の南側は綾瀬側が先にできて大和側が後からできた。私たちは、神奈川県立の公園または施設にするよう提案したが、いま県はそのような施設は整備しないとのことで実現しなかった。県の施設であれば直通バスを走らせることもできたかと思う。また、大和スポーツセンターを整備するとき、共産党は空調を入れるように要望したが、当時の担当職員が「スポーツは汗をかくものだから必要ない」と言って取り合わなかった。皆さんが、職員も私たち議員も鍛えてほしい。

市がスポーツ施設をつくる時、体育協会として意見を聞かれないのか。

廣瀬；つくる時にはない。話があるのはできた後だ。

姉崎；スポーツ推進審議会があるが、市が用意した議案を審議するので、つくる段階では何も話がない。市はスポーツ以外の施設も先のことをしっかり見ないであちこちで中途半端なものを整備してきた。使っている団体が一番わかるのだから、設計の段階で相談してほしい。

河崎；今の話は私たちとしても反省すべきところが多い。市が何をつくろうとしているか、議員は早い段階で情報をキャッチできる。その段階で市民団体の方々に意見を聞くことができれば、行政が団体の方々の意見を聞かなかつたとしても、施設について提案ができたはずだ。文教市民経済常任委員会として初めてこのような会をもった。現在建設中の施設は遅いかもかもしれないが、今後はこのような場を大事にしていかなければならないと思った。

町田；放課後児童クラブ向けのサッカー教室の話があったが、今後ぜひ広げていってほしい。

加藤；学童のときは学校の体育館でやらせてもらったが、いまフットサルは体育館では禁止されている。そこも課題である。

古谷田；学校開放でもフットサルが今、問題になっている。ボールが少し重いのと、思い切り蹴るので破損が結構あるようだ。フットサルをどうするかはこれからの議論になると思う。

加藤；私たちが使うのは空気の入った小さいサッカーボールなので、子供が蹴って壊れるようなものではない。リクエストとしては体育館でやりたい。

古谷田；学校施設についてご意見はあるか。

廣瀬；以前は、月1～2回は校庭開放をしない日があった。子供たちが学校にきて遊ぶために空けておく日というのがあった。現在は違うようだが、校庭が空いている日がある。

宮田；今は、全日程を学校開放で使っている。また、校庭を予約した団体による他団体への又貸しは禁止されている。予約して急に使えなくなった場合でも、5日前までに市に申請が必要であり、細かに調整している地域もあるがさまざまだ。私の地域は自分が手続きを代行してなるべく校庭に空きが出てもつたいないことにならないよう努力している。

姉崎；学校開放は良い取り組みだが、利用する側が権利だと勘違いしたり、調整する側の学校開放委員会が特権意識を持ってしまっている地域がある。学校教育の施設を貸して頂いているという認識やスタートを忘れて、みんな自分のことだけ考えて学校施設を使おうとする。それは少し違うのではないか。自分は大和中学の外部コーチを長くやらせてもらったが、部活の子供たちは午後6時半には全員学校から出される。門の外に出て着替えることもある。おかしいのではないか。大和スポーツ少年団の指導者は今、150人くらいいて、どのように子供たちを指導すべきか、自分たちはどうあるべきか講習を

受けるが、講習会ではこの話を常にしている。

井上；重複する話になるが、つきみ野野球場はいつも空いていると言われる。聞いてみると担当者は「いや埋まっている。お金をもらっているから他団体は使えない」という。直前にキャンセルされた施設を有効活用できないのかとよく市民の方から聞かれる。また、学校開放の時間までに部活の子供たちが退去させられることについては、下校時間が生徒手帳にまで明記してあるそうだ。

河崎；宮応委員と同様に、私も子供たちの体力の低下や集団遊びの減少などは課題と感じている。青少年が大人に育っていく中で、危ない問題を含んでいる。市も同じ問題意識なのか、ボール遊びができる公園を整備するとして今年度南中北1か所ずつ計画している。だが高い防球ネットを張るということで、地域は賛成派と反対派で騒然としている。ボール遊びができる公園という施策についてどのようにお考えか。

宮田；私の近所の公園では、夕方になると子供たちがボール遊びをやっている。ボール遊びはやめましようとしてあるが、保護者なども一緒にキャッチボールやサッカーをしている。近隣で理解しあって行われている。ネットを張るのは少しおかしい感じがする。

姉崎；スポーツは自分たちでルールをつくって、失敗しても認めあいながら次は止めようぜとなっていていかななくてはならない。防球ネットで逃げないでほしい。他に迷惑をかけないでやることを学ぶのはスポーツの大事な意義である。ネットを張ったから、通る人がいても無視してキャッチボールをつづけることにならないのか。

宮田；ネットを張ってしまうと、公園に入っただけではいけない感覚になるのではないか。

古谷田；なかなかボール遊びができるところがない、学校施設も申請しなくては使えないという声を受けて、試験的に3か所という市の施策だと思う。

河崎；ネットを張ろうとしている公園の近くの方が、防球ネットは違うのではないか、ボールが飛び出して他人の庭に入ったら、すみませんと頭を下げる行為と同時進行することが必要で、ネットを張ればよいということではないと言っておられた。私も教えられた。

姉崎；ボール遊びは、投げ方によっては障がいが残る投げ方もある。ただ集まってボール遊びをすることが健全な将来につながるのか疑問もある。ゆとりの森と同じで、先を見ていない整備になってしまうのではないか。

宮田；学校の校庭は大人のソフトボールも使っていていいことになっているが、ボールが出てしまう。公園の防球ネットより学校施設のネットにお金をかけたほうが、みんなが使えるのではないか。

古谷田；これからは、総合型地域スポーツクラブが重要になると考えている。

学校の部活は顧問の負担が大きい。部活動も地域に根差して地域で運用していき、生涯スポーツなどにもつなげられる環境が必要かと考えている。

姉崎；総合型地域スポーツクラブは、それぞれの地域ごとというイメージがあるかもしれないが、大和は市域も狭いので市全体を一つの地域と見て、地域や世代、競技の違いなどもトータルで考える欧州型を大和スポーツクラブは目指していきたい。そのような意味では、大和市体育協会が行政から離れて財団化して、大和の体育行政や社会体育をコントロールしてシステムを変えていくようなことも考えていかなければならない。

加藤；行政のスポーツ関係の部課を独立させなくては、さまざまな面で柔軟性が出てこない。

古谷田；スポーツ関連事業は、平成25年度から教育委員会から市長部局に移管されたが、それにより何か変化はあったか。

廣瀬；特にない。

宮田；変わったところはないが、振興会やスポーツ推進委員会の行事の際に市長が来て挨拶をして下さるようになった。

座長；予定していた時間を15分過ぎた。閉会にあたって、本日は記録に専念していた副委員長から挨拶をする。

町田；現場の生の声や市民の声、またトータルな将来への展望など大変貴重な意見や提案をいただき感謝している。議員の仕事として大きな課題をいただいた。私たちも、もっともっと皆さんの意見を聞く機会を持ち、同時に、こちらから出て行って子供たちの様子を観察しながら市側に声を届け提案していかななくてはならないと強く感じた。今後とも議会や市にご意見をいただきたい。本日は誠にありがとうございました。

11：50 閉会